

静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会

発行日 平成28年10月3日

担当 **焼津市立大井川南小学校**

〒421-0211 焼津市吉永490番地

TEL (054) 622-0104 FAX (054) 622-7912

通級指導教室直通TEL/FAX (054) 622-0288

見つけよう 考えよう 行動しよう ～自分の夢に向かって～

焼津市立大井川南小学校長 畑 宏明

平成20年に旧大井川町と旧焼津市とが合併した現在の焼津市において、最も南西に位置する本校は、西に大井川、南に駿河湾、そして東に広がる平野部の先に遠く富士山を望むことができます。

校舎は、平成12年に竣工された新しいもので、コンクリート打ち放し仕上げのなかに木材のぬくもりが感じられるモダンな口の字型校舎となっています。

重点目標を「見つけよう 考えよう 行動しよう ～自分の夢に向かって～」と設定し、教育活動に取り組んでいます。子どもたちが、自分の目標を見つけ、何をすればよいかを考え、その実現のため行動する。そして、また新たな目標に向かっていく。そんな姿を求めことによって、その子なりのよさを見出し、自身にも気づかせ、人格の基礎づくりを図っていきたいと考えています。

本校には、市内4学区を対象とした「幼児ことばの教室」「学齢ことばの教室」(言語)と「まなびの教室」(発達)が設置されています。3名の指導担当が、幼稚園・保育園、学校の先生方と連携を取りながら、保護者の思いに耳を傾け、子どもも親も安心して通える教室経営に取り組んでいます。

自分がどうしてよいか分からず、自己実現に困り感を持つ子どもに対して、じっくりと向き合い、実践に裏打ちされた確かな指導法によって、精神的な安定が図られ落ち着いて学校生活に取り組むことができるようになっていきます。

また、親子関係の改善等にもつながる指導を行うことで、保護者自身の安定につながり、それが子どもによい影響として還っています。

さらに、学級での指導に悩む教職員への適切なアドバイスを行う在籍学級支援も効果を上げていると言えるでしょう。

本年度、重点目標具現のための指導の重点として、「いっぱい話そうたくさん書こう」を掲げ、合い言葉にしています。通級指導教室でもその姿を高く意識し、指導に取り組んでいます。「ことばの教室」や「まなびの教室」においても、子どもが自分の思いや考えを伝える場面を設定することによって、自信を持って表現する姿が随所に見られるようになっていきます。

今後も指導を重ね、子どもたちが自分の夢に向かって、見つけ、考え、行動する力を育てていける教室にしていきたいと思っています。



教室の紹介



<「ことばの教室」のプレイルーム>

ここでは、全身を動かす粗大運動（トランポリン、ボールプール、的あてなど）をしたり、親子でゲームをして遊んだりします。奥には「幼児と学齢ことば」の指導室があります。



<「まなびの教室」の指導室>

ここでは、粗大運動（ユニジャンプ、ぶら下がり、バランスボールなど）をしたり、机で、パズルやプリントをしたりします。白い壁の裏側に「保護者待合室」があります。

教材・教具の紹介



<ゆらゆらボール>

つきたい力は？

- 眼球移動
- 空間認知
- 目と手の協応性



<ホースわたり>

つきたい力は？

- 身体知覚
- バランス感覚
- 運動企画力



<市販のパズル類>

つきたい力は？

- 空間認知
- 物と物の関係性
- 思考の柔軟性

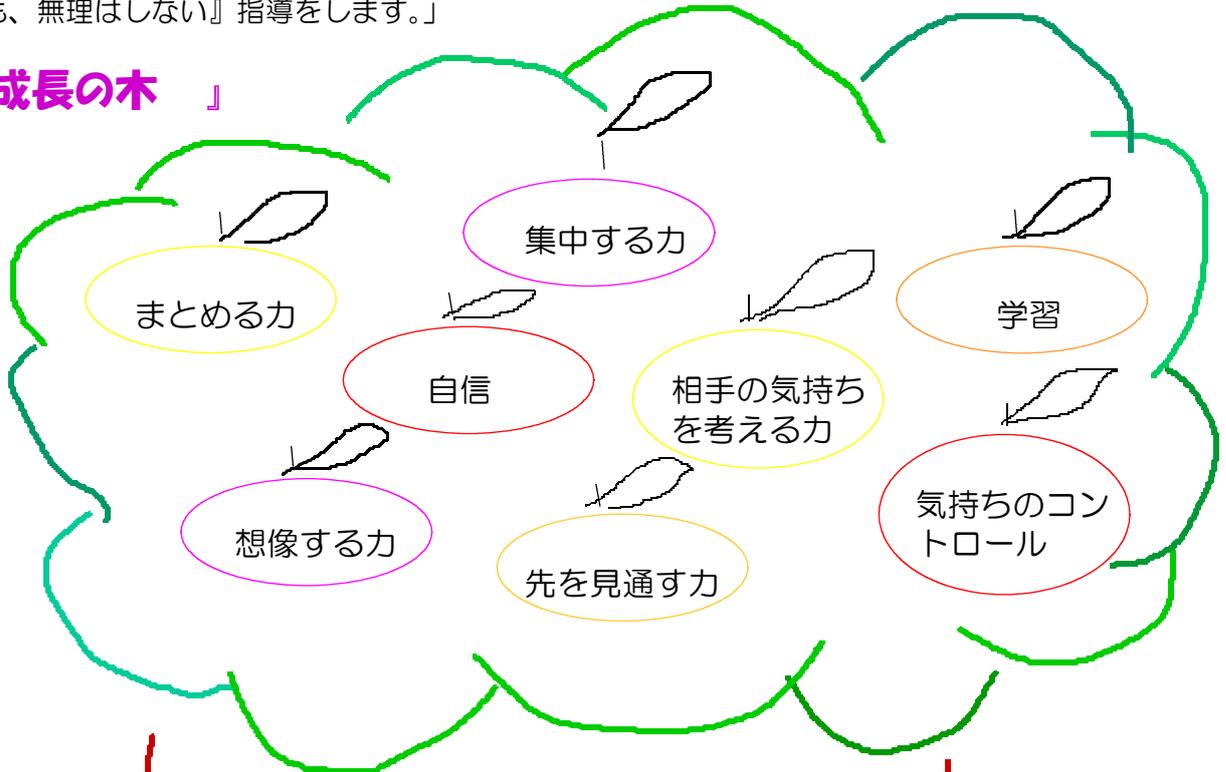
「どの教材・教具がいいのか？」ではなく、子どもの伸ばしたい力を見極めてそれに適した教材・教具を選ぶことを心がけています。

『ある教材は使う、修正した方が適していたら修正する、教材がなければ作る』

保護者と話をする時の資料です。

「子どもの育ちには、順番があります。木の根からしっかりと育てると、いい実ができます。いい実を育てるために、いっしょにがんばりましょう。通級指導教室では、『楽しく』『がんばる』『でも、無理はしない』指導をします。」

「成長の木」



話しことば 見て細かな指先の動き

目的を持った活動

気持ちの安心感 落ち着き 注意力
自分の体の動きを知る
左右を使い分ける 遊び 見分ける

音やことばなどを聞く
(心地よい音・不快な音など)

いろいろな物を触る
堅い・柔らかい
べとべと・さらさら・にゆるにゆるなど)

這う・立つ・走る
持つ・握る・ぶら下がる・持ち上げる
(重い・軽い・細い・太いなど)

すべる・転がる
ジャンプ
跳び降りる
ゆれる など

食べる・飲む
吸う・吐く・見る など

親と子のきずな・肌のぬくもり・安心できる空間

ナツシーの五重塔理論

一つの教材・教具を繰り返し行うことで、子どもが伸びる力が変わってくる。
 そのためには、教材・教具を使った指導方法を研究していかなければならない。

